

平成元年度事業成果の概要

平成元年度は、センター設立3年度目として、さらに、組織体制の充実をはかりつつ、昭和63年度に引き続き、水辺空間整備事例の収集・整理をはじめとして、水辺空間利用の今後の動向・あり方等の検討、水辺空間整備の計画手法、水辺空間の施設整備に係わる技術的な手法の研究開発等に重点的に取り組み、それらと併せて国・地方公共団体等に対して委託を受けて技術協力を行うとともに、諸資料の蓄積に努めた。また一般への広報・普及啓蒙活動を積極的に行った。

その具体的な実施状況は、次のとおりである。

①高規格堤防・超過洪水対策に係わる水辺空間整備に関する調査研究

高規格堤防の横断形状の検討、地域社会に及ぼす効果・影響の分析等、堤防内の各種構造物の処理方法の検討、堤防上の土地利用のあり方の分析等を行った。

②流水保全水路・水質浄化対策に関する調査研究

流水保全水路の概念整理、上水道・下水道との役割分担、河川管理上の問題点の検討等を行い、江戸川、淀川を対象に保全目標、設計流量、事業効果、費用負担の検討、施設計画の策定と、水質浄化手法等の調査研究を行った。

③ふるさとの川モデル事業、マイタウン・マイリバー

整備事業等の水辺空間整備に関する調査研究技術開発「ふるさとの川モデル事業」「マイタウン・マイリバー整備事業」等に関する調査研究と計画づくりを行っている。このため、まちづくりにおける水辺空間のあり方・意義・機能・役割、水辺空間整備の方法論・整備手法及び水辺空間の管理・保全・活用のあり方についても調査研究を行っている。

④海岸・河口・港湾に係わる水辺空間整備に関する調査研究技術開発

東京湾、伊勢湾等における河口や海岸の保全をベースとした水辺空間のあり方、港湾機能の変遷にともなう港湾背後地の整備の方法、CCZ整備事業におけるリゾート地の形成・マリナー養浜等の整備技法および人口バリア構想の多目的利用など海辺の整備に関する調査研究と計画づくりを行った。

⑤地域開発・都市開発と水辺空間整備の調和に関する調査研究

まちづくりの中で、水辺が果たす機能をうまく引き出すために、それぞれのまちにおける水と緑のマスタープランについて調査研究を行い、計画づくりを行うとともに、水

辺を活用した住宅整備・公園整備・中心市街地整備・ウォーターフロント開発における防災対策等について調査研究を行った。

⑥水辺空間整備に係わる内外先進事例に関する調査研究
ヨーロッパの国々におけるウォーターフロントの事情調査、アメリカにおける水辺空間の開発現況調査を行った。

⑦水辺空間に関する広報・普及啓蒙

イ. 講演会・研究会の開催

ロ. 水辺の文化誌「フロント」の発刊

ハ. 機関誌の発行「RIVER FRONT」

ニ. パンフレット、ポスター、カレンダー、書籍等の発刊

⑧国際協力

イ. 北米ウォーターフロントの事情視察団の派遣

ロ. 大韓民国河川環境管理に関する技術協力

ハ. 海岸及び海洋管理シンポジウム(チャールストン市)に参加

ニ. パキスタン共和国ラオール都市圏総合交通システム開発計画調査に参加

なお業務の実施件数等は次のとおりである。

項目	昭和62年度 件数	昭和63年度 件数	平成元年度 件数
高規格堤(スーパー堤防)・超過洪水対策に係わる水辺空間整備に関する調査・研究・技術開発	7	9	11
流水保全水路・水質浄化対策に関する調査研究・技術開発	4	2	2
ふるさとの川モデル事業、マイタウン・マイリバー事業等の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発	18	65	61
海岸・河口・港湾に係わる水辺空間整備に関する調査研究・技術開発	11	12	3
地域開発と水辺空間整備の調和に関する調査研究	7	20	30
水辺空間整備に係わる内外の先進事例に関する調査研究	5	10	37
その他の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発	11	30	
水辺空間に関する広報・普及啓蒙	4	13	22
国際協力	1	4	4
計	68	165	170

平成2年度は、センター職員も40人となり、職員一同、新しい気持ちで業務に取り組んで行く覚悟でおります。皆様の御指導をよろしくお願い致します。

